

## 「先生の口癖」

福岡雙葉中学校

大垣 花乃

「今ここで部活ができていることに感謝の気持ちを忘れるな。」部活の顧問の先生の口癖。顧問の先生を見たらこの言葉を思い出してしまうくらい頭にこびりついている。そしていつも先生は誰に～とは言わない。勝手に両親や先生方、仲間だろうと解釈していた。が、この夏、私達、つまり税を納めている人がその中に入ることに気づいた。税があるから私達は大会で体育館が使えて、皆で喜び合って、現在進行形で最高の青春を送っているのだ。

副読本を読んで一番印象的だったことは、国の公債金についてだ。公債金とは、国が国債を発行して国民や会社から借りたお金のことである。このお金は将来の世代、私達が支払わなければならない。令和四年度末の国債残高は約 1,026 兆円、国民一人あたりに換算すると約 820 万円になることが見込まれている。税収が歳出に対して少なすぎるのだ。世界と比較すると、日本の債務残高はGDPの2倍を超えており、主要先進国の中でも最も高い水準にある。対策として、2019年10月に消費税が10パーセントに引き上げられたが、公債金の残高は年々増加している。新型コロナウイルスの影響が大きいようだ。公債金が増えた上、少子高齢化の深刻化により次世代の働き手世代の負担がさらに肥大化すると考えられる。

このような問題があるものの、今まで私達が安定した生活を送ることができたのは税のおかげ。税様様だ。そしてその税を納めているのが全国民。私達はまずこのことに個々で誇りを持ち、お互いに感謝し合うべきだと思う。そうして税に対するイメージが良いものになれば、この問題にも前向きに向き合っていけると思う。

私はまだ中学生で、所得税や法人税など高額な税を払うことはできない。だから、先生の言葉通り、感謝の気持ちを持って過ごしていきたいと思う。感謝を全員に直接伝えることはできないが、その分今を全力で楽しむこと。そして働き手になった時恩返しとして全身全霊で働く。次世代の子ども達が私たちのように楽しい青春を送ることができるよう。今まで国を支えてくれた高齢者の方々の安定した生活のために。

きっとこれから、部活の顧問の先生を見たら税のことを思い出さだろう。その時は心の中で全国民に「本当にありがとうー！」と叫んでみようと思う。この気持ち、誰かに伝わるといいな。